

栄養改善事業の国際展開の検討について

平成27年3月12日

内閣官房健康・医療戦略室

栄養改善事業の国際展開検討チーム

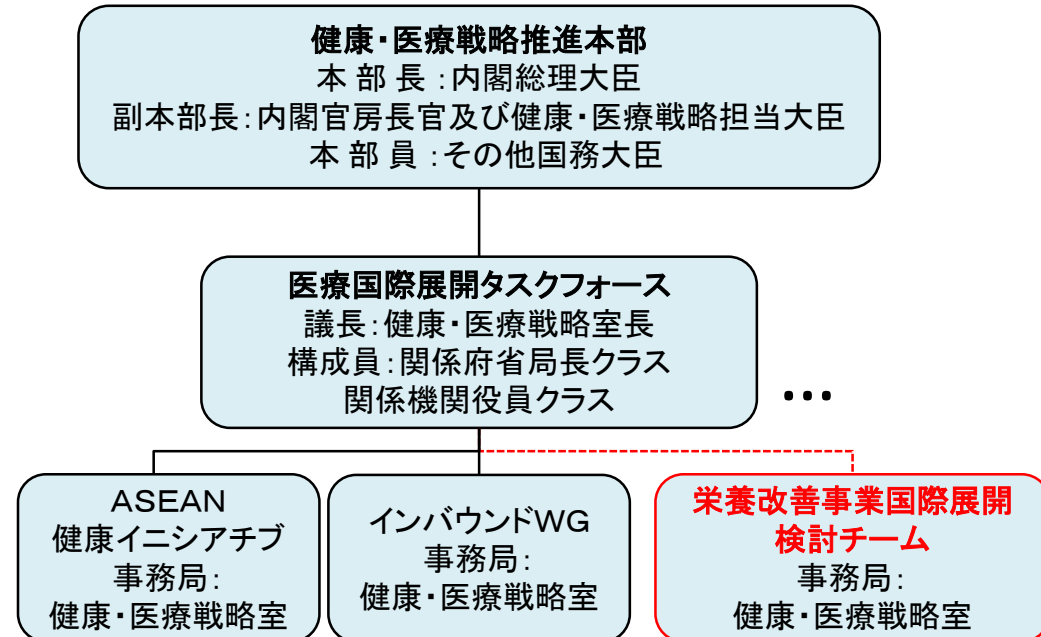
目的

- 日本の国際的な栄養改善の取組が期待されている中、日本企業による栄養改善事業の国際展開について、企業の具体的取組をもとに、個別案件の形成方法や国の支援策の検討を行う。
- この検討結果を踏まえた施策を行うことにより、日本企業の国際展開を促進するとともに、日英共同声明及び日伯共同声明で確認した、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた国際的な栄養改善の取組の強化に向けて、官民連携を推進する。

チームメンバー

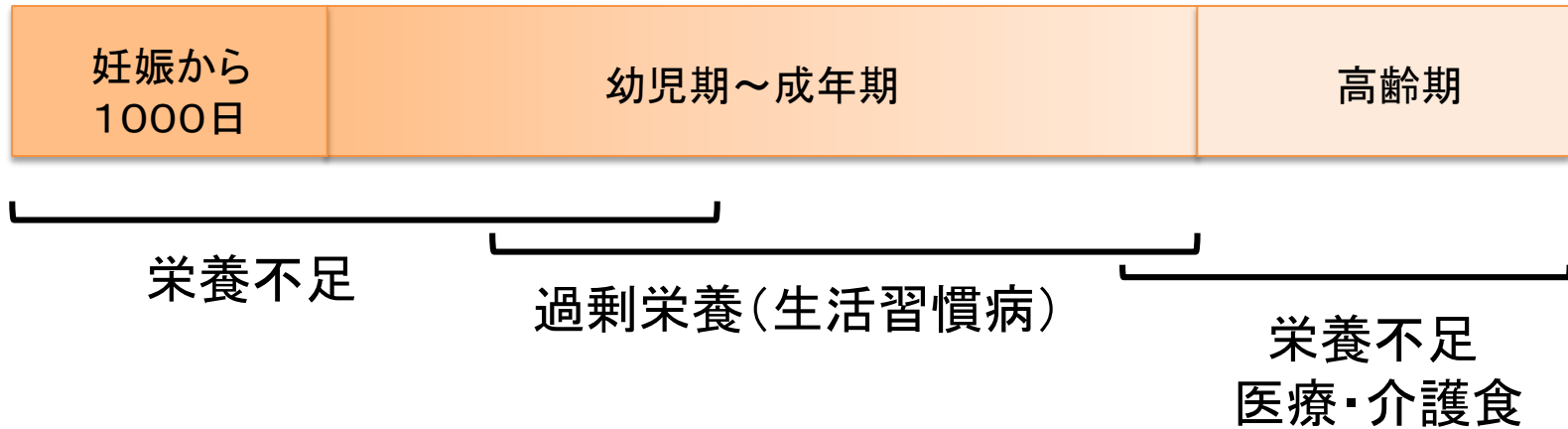
- 議長：内閣官房 健康・医療戦略 次長
 - 議長代行：農林水産省 食料産業局 次長
 - 企業：
 - ・ 味の素
 - ・ カゴメ
 - ・ キューピー
 - ・ 明治
 - ・ 大塚製薬
 - ・ キッコーマン
 - ・ 日清食品
- ※まずは、国際協力機構のFS参加企業などを予定
- 関係府省・関係機関
 - ・ 内閣官房健康医療・戦略室
 - ・ 外務省
 - ・ 文部科学省
 - ・ 厚生労働省
 - ・ 農林水産省
 - ・ 経済産業省
 - ・ 日本貿易振興機構(JETRO)
 - ・ 国際協力機構(JICA)
 - ・ 国立健康・栄養研究所 など

【体制図】

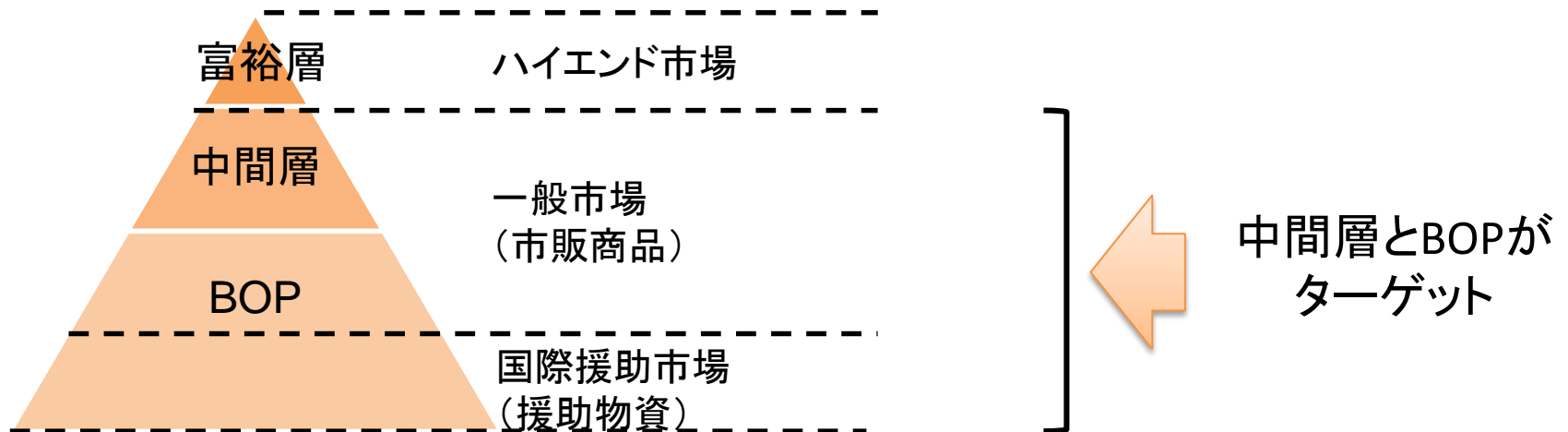


検討チームの対象範囲(1)

ライフステージの分類



所得階層の分類



検討チームの対象範囲(2)

事業の視点(バリューチェーン)



事業の視点(購入者)

- 一般消費者
- 学校(学校給食)
- 国際機関など(援助物資として)

The Amsterdam Initiative against Malnutrition (AIM)



食料と栄養の安全保障の改善に向け、多様なステークホルダーが連携して取り組むイニシアチブ。Market based approachを用いて、革新的なソーシャルビジネスモデルを開発し、財政的にも長期間持続可能な支援を行う。

参加パートナー

事業開発: Unilever(日用品・食品), DSM(ヘルスケア・栄養・素材), Akzo Nobel(化学品), SPAR(小売), Rijk Zwaan(農業) 他
ネットワーキング: Hivos(NGO), ICCO(NGO), GAIN(NGO)
評価検証: Wageningen UR(大学系研究機関), BoPInc(NPO)
金融支援: Rabobank Foundation
資金提供: オランダ外務省(50%)、参加パートナー(50%)

活動領域

バリューチェーン全体の様々なレベル
農業、食品加工、スーパーマーケット、ヘルスクリニック、ヘルスアドボカシー、研究解析など

体制

事務局: GAIN, Akzo Nobel, DSM

AIM 主な活動内容

Smart life



ケニアにおいて、ヘルスキオスクを作り、安全な水、栄養食品、衛生製品を販売。「Smartlife」ブランドとして、現地の安全衛生・保健に貢献

Unilever, WSUP, GAIN, Aqua for All

Vegetables for all



ケニアにおいて、地元で生産された野菜への消費者のアクセスを改善。生産性の高い野菜の種の販売、農家への技術指導や融資。農家と市場をつなぐ輸送、冷蔵・乾燥技術の開発
RijkZwaan, WUR, GAIN, Rabobank 等

Nutrition Powder Mix Me



ケニアにおいて、幼児の栄養改善のためのサプリメントを消費者や病院などに販売。主原料はDSMが地元企業に販売。地元企業は加工、パッケージ、流通、販売を行う

DSM, GAIN, Phillips Healthcare Services

Fortified daily



ケニアにおいて、日用食品の牛乳やヨーグルトにビタミンやミネラルを添加し、栄養を強化。地元牛乳組合が、ブランドをつけて販売

DSM, Kinangop Daily Cooperative, GAIN, SNV

Rural retail hubs



アフリカの郊外において、地元小売店をリフォームし、農産物の流通のハブ機能を持つ店を開発。野菜の種を地元農家に販売し、収穫した農産物は店に持ち込まれ、他の地域へ流通。

SPAR, RijkZwaan, GAIN, BoPInc 等

その他

Improve nutrition in cash crop value chains

Value chain for fortified food

Quality assurance & control

Access to finance

Monitoring, evaluation and learning

出典： AIM Brochureを元に、内閣官房作成

(http://2013.gainhealth.addison.com/sites/www.gainhealth.org/files/AIM_brochure_0.pdf)

本日の論点

論点1. 検討チームで検討すべき課題は何か？

- ① 企業の栄養改善事業の課題と対応
- ② 官民連携の在り方
- ③ 日本の栄養政策の発信

論点2. 栄養改善事業の課題解決に向けて、

- 活用できる既存施策は何か？
- 新たな施策として、どのような施策が考えられるか？

今後のスケジュール

平成27年

- 3月 第1回検討会（検討方針の検討）
- 4月(P) 先行事例の視察（オランダAIM）
- 5月(P) 第2回検討会
- 7月(P) 第3回検討会（中間とりまとめ）
- 11月(P) 第4回検討会
- 12月(P) 第5回検討会（とりまとめ）



平成28年

- アフリカ開発会議(TICAD)
- 主要国首脳会議(日本サミット)
- 8月 リオデジャネイロオリンピック(栄養会議)

平成32年

東京オリンピック

(参考) 健康・医療戦略(平成26年7月22日閣議決定) (抄)

2. 各論

(2)健康・医療に関する新産業創出及び国際展開の促進等に関する施策

3)健康・医療に関する国際展開の促進

エ)顧みられない熱帯病(NTD)や栄養不良等に関する官民連携による支援等

・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、世界的な栄養改善の取組を強化することについて、日英共同声明の中で確認したことを受け、日本の優れた栄養強化食品などの研究開発力をいかし、新興国・途上国を含む各国の栄養改善のため、官民連携を通じた包括的(インクルーシブ)ビジネスを含む事業の国際展開を進めるとともに、こうした取組をスポーツ・フォー・トゥモローなども活用して国際的に発信する。

(参考)健康・医療戦略の推進体制

